

交

い

かいじあむ通信
kai

山梨県立博物館

Yamanashi Prefectural Museum



第57号

2023年2月8日発行
山梨県立博物館

国宝 金印「漢委奴国王」
(福岡市博物館蔵)

刻まれてきた 歴史と文化 印章

令和5年3月11日(土) ~ 5月8日(月)

山梨県における印章産業は、水晶印に篆刻を行ったことから始まったといわれ、現在では全国一の生産量を誇ります。この展覧会では、印章の役割や未来のあり方などについて歴史的、文化・芸術的な広い視点で改めてご紹介し、考える機会とします。

山梨初公開!

国宝金印

期間限定展示

3月11日(土) ~ 21日(火祝)

※3月14日(火)は休館



甲斐国印

大宝4年(704)、朝廷は「国印」を作り各国に授けた。この時に国号「かひ」の漢字が定まったと考えられる。



近世 甲州商家の印

近世の商家では、所在地・屋号・取扱品などを記した印章を、営業関係の書類に用いていた。

武田氏龍朱印

武田信玄 (1521~73)

言わずと知れた戦国時代のレジェンド。天文10年(1541)に当主の座に就くと、新たに龍を象った印章を使い始めた。武田氏当主の印として勝頼にも受け継がれ、この印が押された朱印状が数多く残されている。



不思議な形をした印

快川紹喜 (1502?~1582)

戦国時代の臨濟宗の僧。武田信玄に招かれ、甲斐国の恵林寺に移った。のち武田勝頼が織田信長に攻められた際、寺に会した諸僧とともに火中に没した。この印は鼎(3本足の金属製の鍋)の形がモチーフになっている。



格調高い作風の印

高芙蓉 (1722~84)

江戸時代中期の儒学者、篆刻家。甲斐国で生まれたとされる。中国の秦漢時代の古印を研究し、当時の刻風を一変させ、「印聖」と称された。



学芸員 おすすめの一品

収蔵資料の見どころを
ご紹介します



この期間に会える!

2023年
2月15日～4月17日

常設展
「道がたぐく出会い」
コーナー



裾模様に家紋入り。
人形用に誂えた
着物を着ています。



着せ替えもできる抱き人形
等身大に近い大型の人形。大木家のお嬢様のはじめてのお友達だったかも。

ちっちゃい!かわいい!!!うつくしい!!!

三月節句雛人形 明治～昭和時代

豪商大木家に伝わった雛人形と道具の一式。煙草盆や煙管などの喫煙具や、食器類、また箏や碁盤と碁石など本物さながらに作られたミニチュアの道具類が見ものです。豪商の節供の様子や当時の風俗をうかがい知ることができます。



ステキなお道具にご注目

リアルな
出来ばえ



煙草盆と煙管

かつて、喫煙は成人女性のたしなみのひとつでした。

カワイイ!

ティーセット

持ち手のないティーポウルを用いたかなりクラシックな一揃い。



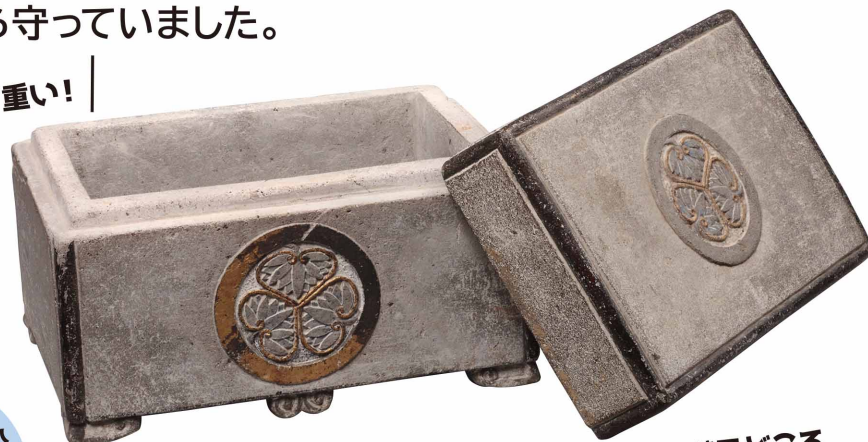
古文書を守る強い意思

山梨県指定文化財(右左口区有文書及び関連資料一括のうち)
江戸時代 宿区(甲府市)所蔵

甲斐国にとって、徳川家康との関係は特別なものでした。「徳川家康朱印状」など、地域にとって重要な古文書類を保管するために右左口村(現甲府市)の人々が用意したのは、重く、また火に強い石の櫃でした。

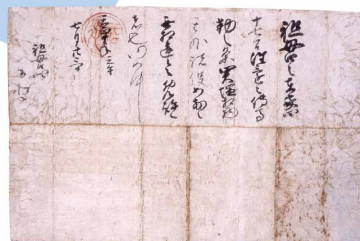
大切な古文書を盗難や
火災から守っていました。

重い!



金箔で飾られた“葵の御紋”が見どころ

中で保管されていた古文書のひとつ



徳川家康朱印状

山梨県指定文化財(右左口区有文書及び関連資料一括のうち)
江戸時代 宿区(甲府市)所蔵

往還の伝馬役(公用の輸送)を負担することでそのほかの諸役を免除する、という家康の命令書。

常設展 テーマ展示

県立博物館では、約2か月ごとにテーマを変えて、常設展の展示替えをしています



「山梨の春は、桃と桜と信玄公」 2023.2.15[水]～4.17[月]

桜舞う春の中、山梨ゆかりの戦国武将、武田信玄にまつわる資料を紹介します。

「資料でめぐる山梨の旅」 2023.4.19[水]～6.19[月]

展示室の資料をめぐって、わくわくする旅に出発!

「世界遺産 富士山」 2023.6.21[水]～8.21[月]

世界遺産登録10周年。あらためて富士山を見返してみませんか。

「歴史のなかの生きものたち」 2023.8.23[水]～10.23[月]

愛でる・育てる・使う・祈る・食べる。人と動物の多様な関係の歴史を紹介します。

この期間に会える!

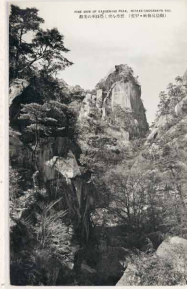
2023年
2月15日～4月17日

常設展
「道がたぐく出会い」
コーナー



シンボル展 国名勝指定 100周年記念
甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡 2023.5.27 [土]～6.26 [月]

御嶽昇仙峡は、優れた景観を持つだけでなく、その最奥に位置する金峰山への山岳信仰や、国内有数の産出量を誇った水晶とその研磨産業など文化的遺産も豊富で、現在のわたしたちの命とくらしを支える清らかな水がめでもあります。本展では御嶽昇仙峡と地域の人々が守り育ててきた景観や文化のあゆみをご紹介します。



「御嶽昇仙峡」絵葉書（山梨県立博物館蔵）

企画展 水木しげる 魂の漫画展 2023.7.15 [土]～9.4 [月]

『ゲゲゲの鬼太郎』などで知られる日本漫画界の鬼才水木しげる。少年時代に見た「地獄極楽絵図」に心を奪われて以来、目に見えない世界を信じるようになり、不思議な世界を探求・表現し続けました。太平洋戦争で生死の境をさまよい、極貧時代を乗り越え、独自の漫画表現に到達した水木の画業を、漫画原稿や原画、愛用の道具、多彩な映像資料をご紹介します。



「妖怪たちの棲む森」©水木プロダクション

企画展 小林一三誕生 150年
宝塚歌劇の世界—清く、正しく、美しく— 2023.10.14 [土]～12.4 [月]

日本のみならず世界的に多くの愛好者を持つ宝塚歌劇は、本県出身の実業家・小林一三により始められました。小林一三は、明治6年(1873)に現在の葦崎市に生まれ、令和5年(2023)に生誕150年を迎えます。本展では、小林一三の文化人としての側面について、宝塚歌劇の歩みや魅力を通じてご紹介します。

シンボル展 帰ってきた芳年の道祖神祭幕絵 2024.1.20 [土]～2.19 [月]

小正月の甲府城下町を華やかに彩った甲府道祖神祭幕絵は、3枚しか現存が確認されておらず、大変貴重な資料です。浮世絵師の月岡芳年が描いた幕絵もそのうちのひとつであり、太閤記の一場面が勇壮な筆遣いで表されています。本展では、令和3・4年度にかけて解体修理を行い、生まれ変わって帰ってきた本幕絵について、修理で得られた情報なども含めてご紹介します。

企画展 富士川水運の300年 2024.3.16 [土]～5.6 [月]

慶長年間、角倉了以によって開削された富士川水運(舟運)は、江戸時代を通じてさまざまな物資や文化をもたらしました。明治時代に最盛期を迎え、昭和3年(1928)に身延線が全通するまで、甲斐・信濃の人々の生活を支える物流の大動脈であり続けました。本展では、1600年代初頭から1900年代前半に至る、およそ300年間の富士川水運の歴史についてご紹介します。

展示会の名称は変更となる可能性があります。

イベントのご案内 2023.4月～9月

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示会・イベント等の日程が変更または中止になる場合があります。

③ 常設展スルーガイド

常設展のガイドツアーです。
毎週土曜日 11:00～11:30

④ ボランティアによる お庭の見どころガイド

四季折々の博物館のお庭を散策します。
開催日 4/15、5/20、6/17、7/15、8/19、9/16
時間 13:30～14:30

⑤ かいじあむ古文書講座

初めて古文書を学ぶ方のための講座です。
開催日 4/22、5/27、6/24、7/22、8/26
時間 13:30～15:00
申込 ☎ 055-261-2631

⑥ 古文書相談日

お手持ちの古文書についてご相談ください。
開催日 5/14、7/9、9/10
時間 10:00～13:00
*古文書の全文解読、鑑定など、お受けできない内容もあります。
*申込不要ですが、事前のご連絡があれば対応がスムーズです。
(☎ 055-261-2631)

⑦ あそぼう!まなぼう!寺子屋ひろば

展示や歴史を楽しみながら学べる体験イベントです。
毎週日曜日 11:00～11:30

⑧ かいじあむ子ども工房

博物館ならではの体験や工作ができます。
開催日 4/8、5/13、6/10、7/8、8/12、9/9

⑨ 館長トーク

当館の守屋正彦館長による講座です。
開催日 5/21、7/16、9/17
時間 13:30～15:00

⑩ その他イベント

- ・かいじあむ こどもまつり 5/4・5
- ・夏休み自由研究プロジェクト合同プレゼン 7/17(海の日) *会場:アイメッセ山梨
- ・かいじあむの夏まつり 8/14・15

2023年	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
	1	1 2 3 4 5 6	1 2 3	1	1 2 3 4 5	1 2
	2 3 4 5 6 7 8	7 8 9 10 11 12 13	4 5 6 7 8 9 10	2 3 4 5 6 7 8	6 7 8 9 10 11 12	3 4 5 6 7 8 9
	9 10 11 12 13 14 15	14 15 16 17 18 19 20	11 12 13 14 15 16 17	9 10 11 12 13 14 15	13 14 15 16 17 18 19	10 11 12 13 14 15 16
	16 17 18 19 20 21 22	21 22 23 24 25 26 27	18 19 20 21 22 23 24	16 17 18 19 20 21 22	20 21 22 23 24 25 26	17 18 19 20 21 22 23
	23 24 25 26 27 28 29	28 29 30 31	25 26 27 28 29 30	23 24 25 26 27 28 29	27 28 29 30 31	24 25 26 27 28 29 30
	30			30 31		
	印章一刻まれてきた歴史と文化 3/11～5/8	甲州の匠の源流・御嶽昇仙峡 5/27～6/26				

- 休館日
- 館長トーク
- 古文書講座
- 古文書相談日
- 子ども工房
- お庭の見どころガイド
- その他イベント

各イベントの詳細は当館ホームページなどでご確認ください。日程や内容は事情により変更になることがあります。

かいじあむトピックス

山梨県立博物館の旬な話題をお届けします



動画配信中！

山梨県立博物館の公式YouTubeチャンネルではさまざまな情報を配信しています。例えば、博物館ならではの体験や工作ができるイベント「かいじあむ子ども工房」で作る工作を、実際に作成している様子を撮影し公開しています。常設展については、展示替えごとに資料の見どころを紹介する動画を作成し、その魅力をお伝えしています。これからも、博物館に興味を持っていただき、ぜひ行ってみたい!と思ってもらえるような動画を配信していきますので、チャンネル登録をよろしくお願いいたします。



山梨県立博物館
【子ども工房】ペーパークラフト作ってみた！



山梨県立博物館
【常設展紹介】テーマ展示「資料でめぐる山梨の歴史」

山梨県立博物館公式YouTubeチャンネル

http://www.youtube.com/channel/UC1EwYSsUrt_GhRKGv9mdG_w

ぜひご覧ください！



利用案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 火曜日(祝日の場合はその翌日)

*5/2～5、8/15は開館。9/13～15は休館。

観覧料 常設展:一般520円、大学生220円

*高校生以下の方、65歳以上の方、障害者の方(およびその介護をされる方)は無料です。

*企画展には別途観覧料が必要です。県外在住の65歳以上の方は企画展観覧料が必要です。

*ご来館の際は、検温、マスクの着用などの感染症拡大防止対策にご協力ください。

かいじあむ通信「交い」第57号 〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

Tel:055-261-2631 Fax:055-261-2632

E-mail:kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp

発行日:2023年2月8日

編集・発行:山梨県立博物館

URL: <http://www.museum.pref.yamanashi.jp>



山梨県立博物館
公式 Twitter
kaiseum_ypm



山梨県の古い国名「甲斐国」の語源は街道と街道の結節点を意味する「交ひ(かい)」であるという説があります。山梨県立博物館が「甲斐」の博物館にふさわしく、人々や情報の交流の拠点となることを願ってこの名前をつけました。

ホームページ2次元コード